

特集

「新しい生活様式」と 交通弱者の保護

新型コロナウイルス感染症対策で、厚生労働省は「新しい生活様式」※を提唱していますが、これらは交通環境にも変化を与えて、リスクの増加につながる面もあると考えられます。今後の変化を認識して、対策を講じましょう。

※厚生労働省(新型コロナウイルス感染症対策専門家会議)
「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言(2020年5月14日)」
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000630600.pdf> (2020.5.14.閲覧)



平日も多様な自転車利用者が増加

1. 「新しい生活様式」と日常生活の変化

「新しい生活様式」の項目(□)と、それによる交通環境への影響例(■)を表示しました。

(1) 一人ひとりの感染症対策

- 人との間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける。
- 歩行者同士が間隔を空けるため道に広がって歩行する。



車道走るランナー

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- 外出を控える。
- 交通量減少から、スピードを上げる車両があらわれる。

(3) 日常生活の各場面別の生活様式

- ・公共交通機関の利用
 - 徒歩や自転車利用も併用する
 - 自転車に不慣れな利用者も増加する。
- ・食事
 - 持ち帰りや出前、デリバリーも
 - デリバリーサービスの車両などが増加する。
- ・娯楽、スポーツ等
 - すれ違う時は、距離をとるマナー
 - 車道にはみ出すランナーや歩行者が増加する。



増加する自転車交通量

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務
- 平日、日中の時間帯でもジョギングする人や自転車が増加する。



増加するデリバリー車両

2. 今までの慣れた道にも新たなリスクが

交通量の減少は、事故件数を減少させた一方で、スピードを上げる車を出現させ、都市部では死者数の増加をまねいているともいわれています。※
生活様式の変化が、慣れた道であっても、これまでと異なるリスクを生じさせていることへの注意が必要です。

※警視庁「交通死亡事故の特徴(令和2年4月末)」

https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/about.mpd/jokyo_tokei/tokei_jokyo/fta.html (2020.5.14.閲覧)

3. 事故防止のポイントは予測と運転行動の基本徹底

交通環境の変化に対しては、これまで以上に、積極的に予測し、一つひとつの運転行動の基本を確実に行うことが必要です。以下の例を参考に、より安全な運転を実践ください。

□ 横断歩道における基本

- ・横断歩道では、一時停止が原則です。
- ・歩行者や自転車とのコミュニケーションを図り、積極的にこれらを保護しましょう。



①前方に自転車を発見



②完全に停止し、アイコンタクト



③停止したまま横断を見届ける

□ ゾーン30など生活道路における基本

- ・通行をできる限り避けましょう。抜け道に利用するのは止めましょう。
- ・通行する際は、歩行者や自転車と十分な間隔を空けて不意な動きに対応できるように徐行しましょう。子どもや高齢者の飛び出しなども予測し備えましょう。

□ 自転車や配送車に対する基本

- ・自転車には、飛び出しや急な進路変更など交通違反が多いことも想定し備えましょう。
- ・配達先を探しながらの走行も多いので、急な右左折なども予測して備えましょう。
- ・見通しの悪い交差点では、一時停止の標識がなくても止まる位の意識を持ちましょう。



損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 <公式ウェブサイト> <https://www.sompo-japan.co.jp>

SOMPOリスクマネジメント株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1
 <公式ウェブサイト> <https://www.sompo-rc.co.jp>

時間に余裕をもって、

「お・も・い・や・り」のある運転を!
 みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス(株)一同